

2014年度継続教育実施委員会活動の報告

大成建設(株)フェロー会員 ○尾高 義夫(土木学会継続教育実施委員会 幹事長)
東京工業大学 正会員 竹村 次朗(土木学会継続教育実施委員会 委員長)

1. はじめに

土木学会の継続教育(CPD:Continuing Professional Development)は、2001年度の創設以来、技術推進機構が運用・普及に当たっている。2014年度は、①CPDガイドブックの改善検討、②CPDシステムソフトの改善、③地方における倫理講習会の開催、④eラーニングの試行、⑤全国大会研究討論会の企画、⑥CPDプロモーション、⑦建設系CPD協議会への参画に関する活動を行った。これらの活動内容について報告する。

2. 委員構成

昨年度(2014年度)初めに委員会のメンバーの入替えを行い、大学及び自治体から鷺見 浩一氏と松本 香澄氏を新たに委嘱した(表1)。また委員長に竹村委員(東京工業大学)が就任した。前年度と同様に、全ての委員を幹事とすることで幹事会の活性化を図り、幹事毎に担当業務を明確化して活動の効率化を行った。

表1 委員構成

役職	氏名	勤務先名称	役職	氏名	勤務先名称
委員長	竹村 次朗	東京工業大学	委員・幹事	松林 豊	国際航業
幹事長	尾高 義夫	大成建設	委員・幹事	松本 香澄	東京都
委員・幹事	入江 達雄	建設技術研究所	委員・幹事	溝渕 利明	法政大学
委員・幹事	鷺見 浩一	日本大学	委員・幹事	森戸 義貴	国土交通省
委員・幹事	橋本 隆紀	清水建設	委員・幹事	保田 祐次	鹿島建設
委員・幹事	堀 圭一	東日本高速道路			

3. 活動状況

①CPDガイドブックの改善検討、②CPDシステムソフトの改善

CPDシステムの2013年度の利用状況を表2に示す。例年と同様に、資格保有者およびCPD会員のアクセス数は高いが、資格未保有者のアクセス数は

表2 CPDシステムの利用状況(2015.2.13)

アクセス数	学会員		CPD会員	合計
	資格保有者	資格未保有者		
0	396 24.0%	34,039 89.8%	314 16.5%	34,749 83.8%
1以上25未満	630 38.1%	3,096 8.2%	1,112 58.5%	4,838 11.7%
25以上	626 37.9%	759 2.0%	475 25.0%	1,860 4.5%
合計	1,652	37,894	1,901	41,447

③技術者倫理講習会の開催

技術者倫理講習会を土木学会の本部の講堂でこれまで計8回開催してきた。講習会の全国展開を行うために、昨年度は、中部支部の講習会WGと連携をして、2014年10月29日に中部支部主催で「技術者の倫理・技術の継承」講習会を開催した。国土交通省中部地方整備局の技術開発調整官の岡田 武久氏の特別講演後に、第一部の技術者倫理では、本委員会で作成した「土木技術者倫理問題－考え方と事例解説Ⅱ－」を使い、技術者倫理と継続教育の説明と「事例4 費用対便益の扱い」、「事例11 安易なコピー・アンド・ペースト」の解説を行い、その後、参加者との討議を行った。

第二部の技術の継承では、国土交通省の岡田 武久氏が発注者の視点で、中部復建株式会社の大場 邦弘氏がコンサルタントの立場で、名工建設株式会社の吉川 輝智加氏が地元建設会社の立場で、所属組織の中で

キーワード 継続教育, CPD, CPDガイドブック, CPD単位, eラーニング, 技術者倫理

連絡先 〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-1-1 大成建設株式会社東北支店土木部 TEL022-225-7617

れている技術の伝承や若手技術者の教育の現況についての報告を行った。これらの話題について、竹村委員長のリードで会場の参加者を含めて討議を行った。限られた討議時間であったが、技術の伝承や若手技術者の教育について問題意識の共有化が図られたと考えられる。

受講人数は32人で、所属の大半が、総合・専門建設業が(56%)と建設コンサルタント(19%)であった。講習会終了後のアンケートの結果から、講習会の好ましい形態として「今日のようなスタイル」が50%、「講師と双方向で会話できるような座談会のようなスタイル」が31%を占め、参加者も含めた討議方式やパネルディスカッション方式の形態希望者が多数を占めた。

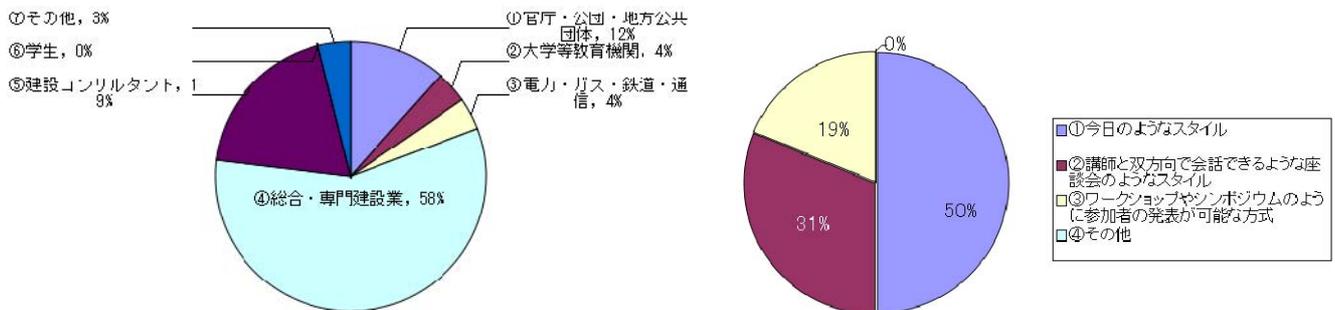


図1 参加者の所属

図2 講習会の望ましい形態

④e ラーニングの試行

土木学会認定の講習会の開催場所が東京や大阪等の大都市に集中している。例えば、建設会社の地方にある作業所に勤務している社員が、このような講習会を受講することは現実的に難しい。そのため、地方の会員の方々が講習会等を受講できるような学習形態のプラットフォーム構築のニーズが高まっている。そこで当委員会が編纂した「土木技術者論理問題－考え方と事例解説Ⅱ－」を利用したeラーニングの教材の試行版の作成を行った。試行版は、「自律性」、「誠実性・公平性」、「継続教育・人材育成」、「説明責任・情報開示」、「法令遵守・率先垂範」の各項目から一つずつ事例を抽出している。試行版は2015年5月に、技術推進機構のウェブサイトに掲載する予定である。試行版によるeラーニング時に、今後のeラーニングの導入の是非等に関するアンケートも合わせて実施する。eラーニング試行を会員に推進するために、土木学会メールマガジンを利用して周知する予定である。

⑤全国大会研究討論会の企画

2015年度の全国大会の研究討論会で、「技術者にとっての生涯学習、その必要性と支援制度」を、本委員会で企画する。技術者の継続教育の重要性については、広く認識されて土木学会においても2001年度に継続教育制度を創設し、インターネットを利用した「土木学会CPDシステム」を構築して土木技術者の学習記録の自己管理サポートをしている。しかし、同システムの利活用については必ずしも十分な状況にあるとは言えない。課題としては、職種、年代、ジェンダー、地域等による学習機会の差や制度の問題、学習成果の活用場の不足等が指摘されている。本研究討論会では、次世代を担う若手技術者・女性技術者および地方の技術者に焦点をあて、生涯学習の必要性、その求められる学習内容と方法、更にはそれらを支援するための魅力ある技術者教育制度について討論する予定である。

⑥CPDプロモーション

昨年度から本委員会で新たに取り組んだ活動である。幹事会でCPDやCPDシステムの利活用の推進について、フリーディスカッションを行っている。それらを踏まえ、前述した「④eラーニングの試行」や「⑤全国大会研究討論会の企画」の活動に反映した。eラーニングの運用試行時のアンケートで、土木学会CPDの利用状況、利用しない理由、認知度、普及のための施策等について、会員からの意見を収集し、今後の活動に反映していく。